

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	不登校、携帯電話依存、スケジュール管理
【学校、学年】	高等学校
	【 3 】年
【状況、様子 等】	<p>○生徒Dの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年の途中より自転車通学が面倒で不登校となり、高校2年時は留年した。通学のため、学校の近くに引っ越した。</li> <li>・時間の感覚がなくなるほど過集中で携帯電話を触ってしまい、登校できなかった。</li> <li>・スケジュール管理が難しい。</li> <li>・ADHD の診断があり、薬を服用している。</li> <li>・ロボット工学に興味を持ち、大学進学を目指している。目指す大学は県外のため、将来自立した生活を保護者は望んでいる。</li> </ul>
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝は家で一人になると携帯電話を触るため、保護者の出勤時、一緒に家を出るようにした。(支援体制)</li> <li>・宿題等は、早く登校して学校で行うようにした。(支援)</li> <li>・携帯電話は学校では担任が預かり、下校時にまた本生徒へ返すようにした。(合理的配慮)</li> <li>・スケジュール管理は、大まかなスケジュールを決め、貼り出すなど「見える化」した。(合理的配慮)</li> <li>・勉強をする習慣を確立できるよう、下校後のスケジュールを無理がない範囲で具体的に立てた。(支援)</li> <li>・課外などで下校時間に変更が出た場合は、再度担任と一緒にスケジュールを立て直す時間を設定した。(支援)</li> <li>・担任以外の教科担当教員とは、本生徒の状況について情報共有を行い、共通理解を図った。(支援体制)</li> </ul>
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校のリズムをつかみ、朝から家族の協力を得ながら、遅刻せずに登校できるようになった。</li> <li>・自宅での学習時間の確保は難しかったが、朝早めに登校し、友人と勉強に励む姿が見られるようになった。</li> <li>・一緒に勉強する友人ができたことで、本生徒が登校すると「よく来たね」と声をかけられる関係性ができた。</li> <li>・学習意欲を持ち、放課後の希望者対象の進学課外も自ら受講するようになった。</li> <li>・帰宅後の過ごし方については、大きな変化がなく生活リズムが整っていない状況であり、今後自立に向けてまだ課題が残っている。</li> </ul>